

\*\*\*\*\*  
【JEC-ET】 020203

## One More Paragraph!

- J E C の脈絡における福音主義神学的思索のひとつ -

作成日：2002年5月25日(土)

\*\*\*\*\*  
こんにちは、関西聖書学院「福音主義神学」教師、一宮基督教研究所の安黒務です。J E C の源流と歴史的遺産をさぐるために、今週は宇田進先生の「福音主義キリスト教と福音派」の「第二章 福音派の源流と歴史的遺産：第二項目 使徒的キリスト教と福音派」のテキストからの第三回目の学びをいたしましょう。

### 【テキスト】

それだけではない。福音派、エバンジェリカルであるということには、もう一つ大事な面がある。それは生きざま、実存の問題である。福音派とは、以上のような使徒的福音の内容をただ忠実に継承するのみでなく、そのために全身全霊をもって献身している者を意味している。このように人生観、価値観における革命的な転換を経験し、キリストのとりことなったパウロは燃えるような宣教のパトスをあかしている。これは文字通り福音のためにみずからの生命を犠牲としてささげますという献身と決意の告白である。福音派、エバンジェリカルであるとは、このように福音のために全生涯をささげ、それに生命を賭ける者のことである。

### 【解説】

使徒的福音（客観）と使徒的実存（主観）の関係とバランスについて、きわめてよく書きまとめられています。改革派系統は前者に、ホーリネス・カリスマ・ペンテコステ系統は後者にと、教派によってどちらかに重心が移りやすいものです。JEC では、戦後のオレプロ・ミッションによる宣教と第一世代の教職者が塩屋のホーリネス系の関西聖書神学校で学ばれたことと、中期からのカリスマ運動の影響において、使徒的実存（主観）に重心がかなり移っていったように思います。しかし、オレプロ・ミッションからスウェーデンバプテスト、そして英国の会衆派ピューリタンへと歴史をたどりますと、使徒的福音（客観）を重視してきた流れを確認することができます。JEC では、その特徴を言い表しますときに、いつも“バランス”とか“中庸”ということばを大切にしています。しかし、そのバランスは自動的に保たれるものではありません。それゆえ、時に応じて、機会を生かして、JEC の源流と歴史的遺産を確認しつつ、使徒的福音（客観）と使徒的実存（主観）の関係とバランスを確保し続ける努力を怠ってはならないと思うのです。歴史を振り返る意味で、JEC50周年記念誌作成はその良い機会となりました。

KBI での講義において、この使徒的実存を学びますときには、ルツ・タッカーの「宣教の伝記的研究」からの資料を開きます。そのアウトラインを下記に記述させていただきます。宣教師の伝記を読みますときに、まさしく使徒的実存が体現された生涯を教えられます。JEC から、バングラディッシュへの医療宣教師で開始され、そして今やインドネシアのカリマンタンへ宣教師が派遣が継続されていることは、「JEC の使徒的実存の健全性」の表現のひとつと思います。インドネシア宣教師経験者であります大田裕作院長を迎えた KBI も日本からの世界宣教の拠点のひとつになりつつあるように思います。私は使

徒的福音（客観）の側面から、「組織神学と歴史神学の教育の領域」でこのダイナミックな宣教の働きを支えていきたいと願っています。

1. 宣教の歴史
  1. 初代教会：ローマ帝国のキリスト教
  2. ローマ・カトリックの宣教
  3. プロテスタント宣教の夜明け
2. 大躍進の世紀：19世紀 偉大なる世紀
  1. 南アジア：伝統的宗教との出会い
  2. 暗黒の大陸：白人の墓場
  3. 極東：「蛮人おことわり」
  4. 太平洋諸島：パラダイス宣教
3. 宣教の拡大：20世紀
  1. 女性宣教師：差別に悩みつつ
  2. 学生ボランティア：富と地位を捨てて
  3. フェイス・ミSSIONナリー：神にのみ頼って
4. 専門技術の応用
  1. 医療宣教：愛の天使
  2. 翻訳と言語学：あらゆる言語で聖書を
  3. 放送伝道：ラジオとレコーディング
  4. 飛行宣教：ジャングルの空を
5. 民族主義の勃興
  1. 20世紀の殉教者
  2. 第三世界の教会の宣教
  3. 新しい宣教の方法と戦略

\*\*\*\*\*